

(平成19年3月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>3月期の野菜の市況については、全国的に年明けからの暖冬の影響を受け、葉茎菜を中心に2月までに前進出荷されたことから入荷量が減少した。また、果菜類は今月に前進出荷となったことから順調な入荷となった。これらのことから、結果的に入荷量は前年並みとなった。</p> <p>価格は、主力の重量野菜が3月上旬の寒気により一時的に生育が停滞し入荷が減少したことにより、前月から一転して高値基調となった。一方、果菜類は、入荷増の影響を受けて全般的に安値推移で終了した。結果的に入荷量が前年を確保する中で、前年同期を5%上回ることとなった。</p> <p>品目別には、長大根、西洋ニンジン、きゅうり、なす、ピーマンが入荷増の単価安となり、たけのこ、トマトは入荷増ながら単価高となった。また、白菜、ほうれんそう、レタス、ばれいしょは入荷減の単価高で推移し、玉ねぎは入荷減ながら単価安となった。キャベツは入荷量、単価ともに前年並みとなった。</p> <p>根菜類は、入荷が4%増加し、価格は21%安となった。 葉菜類は、入荷が12%減少し、価格は16%高となった。 果菜類は、入荷が15%増加し、価格は4%安となった。 土物類は、入荷は5%減少し、価格は前年並みとなった。</p>
果 実	<p>3月期の果実の市況については、裏年にあたった柑橘類の終了時期をむかえる中で入荷量が減少した。一方で、リンゴ関係は暖冬傾向から冷蔵物以外の品質の低下が心配されたことから前進出荷となった。また、イチゴ、メロン関係は、比較的順調な入荷状況となった。結果的に入荷量は柑橘類の減少を要因として前年同期を6%下回った。</p> <p>価格は、基幹品目の柑橘類の入荷減などによって前年同期を19%上回る高値基調で終了した。</p> <p>品目別には、みかん、甘夏、伊予かん、王林が入荷減の単価高で推移し、はっさく、ふじりんごは入荷増ながら単価高であった。</p> <p>柑橘類は、入荷が24%減少し、価格は67%高となった。 りんごは、入荷が23%増加し、価格は15%高となった。 いちごは、入荷は前年並みで、価格は4%高となった。 メロンは、入荷が21%増加し、価格は19%安となった。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】	
長大根	<p>徳島，長崎，滋賀を主力に鹿児島からの入荷。各産地ともに生育は良好で潤沢な入荷状況であった。結果的に入荷量は，前年同期を5%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を34%下回った。</p>
洋人参	<p>長崎，鹿児島，愛知，徳島を中心に千葉からの入荷。暖冬により各産地ともに生育が良好であったため，九州産地を中心に残量も多く，順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を42%下回った。</p>
たけのこ	<p>京都，徳島を中心とする入荷。暖冬傾向から発生も良好で，概ね順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を4%上回った。</p> <p>価格は，入荷が順調な中であって，2L・Lサイズを中心に高値で推移し，結果として，前年同期を19%上回った。</p>
【葉菜類】	
はくさい	<p>長崎，兵庫，熊本，愛知を中心とする入荷。秋冬産地は，暖冬傾向から前進出荷となったため，今月になって入荷が減少してきた。また，3月に入ってからは，上旬を中心に低温となり，後続産地の入荷が遅れたため，結果として前年同期を25%下回った。</p> <p>価格は，寒の戻りによって入荷量が減少したため，前年同期を12%上回った。</p>
キャベツ	<p>愛知，大阪，滋賀，兵庫を中心とする入荷。各産地ともに，暖冬傾向から生育もよく，大玉傾向で前進出荷となった。結果として前年並みとなった。</p> <p>価格は，上旬は2月の安値傾向が続いたが，中旬以降は量販店の特売需要と前進出荷の一時的な入荷の減少による品薄感から相場が持ち直し，結果として，前年並みとなった。</p>
ほうれんそう	<p>京都を主力に徳島，茨城，滋賀からの入荷。各産地ともに高温の影響から前進出荷で推移していたことから，今月は入荷量が減少してきた。結果として，入荷量は前年同期を19%下回った。</p> <p>価格は，入荷量の減少から前年同期を49%上回った。</p>
レタス	<p>長崎，兵庫，徳島，茨城を中心とする入荷。各産地ともに暖冬傾向から作柄は良好で前進出荷となり，今月に入って入荷量が減少した。加えて，上旬の寒波により生育が停滞したことから，結果として，入荷量は前年同期を22%下回った。</p> <p>価格は，入荷量の減少から前年同期を41%上回った。</p>

主要品目（野菜）	市況の概況
【果菜類】 きゅうり	<p>宮崎，高知を中心に滋賀，愛媛からの入荷。2月までの暖冬の影響から順調な入荷となり，結果として，入荷量は前年同期を28%上回った。価格は，入荷増により前年同期を26%下回った。</p>
なす	<p>高知，岡山を中心とする入荷。各産地とも暖冬傾向から，前進出荷となり，4月にピークを向かえる春もの産地を中心に順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を25%上回った。価格は，入荷増によって，前年同期を14%下回った。</p>
トマト	<p>熊本，福岡，三重を中心とする入荷。各産地とも暖冬傾向から，前進出荷となり，4月にピークを向かえる産地を中心に順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を10%上回った。価格は，入荷増ながら，量販店の特売需要と入荷量の伸びが予想より悪かったことから，先月までの品薄感がのこり，高値が続く結果となった。結果的に前年同期を17%上回った。</p>
ピーマン	<p>宮崎，高知，鹿児島を中心とする入荷。各産地ともに作柄も良好で順調な入荷となった。結果として入荷量は前年同期を28%上回った。価格は，入荷増により前年同期を18%下回った。</p>
【土物類】 ばれいしょ （メーク含む）	<p>北海道，長崎，鹿児島を中心とする入荷。北海道産の貯蔵物が減少していくなかで，鹿児島産は順調に入荷したが，結果的に入荷量は前年同期を7%下回った。価格は，入荷量の減少と2L中心に高値で取引されたことから前年同期を9%上回った。</p>
たまねぎ	<p>北海道を中心に長崎，静岡，兵庫からの入荷。北海道の貯蔵物が少なくなる中，静岡産，九州産の新物は，前進出荷となったが，生育期間中の高温が影響し，秀品率が悪く不安定な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を4%下回った。価格は，入荷量は少なかったが，新物の品質が悪く，単価安での推移となった。結果として，前年同期を10%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
普通みかん	<p>和歌山を中心とする入荷。今作が裏年にあたったことから終始入荷量は少なく終了した。結果として前年同期を69%下回った。</p> <p>価格は、入荷量が少ない中で、前年同期を132%上回った。</p>
甘夏柑	<p>福岡を中心に熊本、大分からの入荷。昨年の台風被害の影響によって若干入荷量が減少し、結果として前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、入荷減と大玉比率が高かったことから単価高で推移し、結果として前年同期を46%上回った。</p>
伊予柑	<p>愛媛を中心に和歌山、広島からの入荷。全般的に小玉傾向から入荷量は減少し、結果として前年同期を18%下回った。</p> <p>価格は、入荷減に加えて、競合品目の柑橘類の入荷量が少なく、高値で推移し、前年同期を56%上回った。</p>
八朔	<p>和歌山、広島、徳島を中心とする入荷。柑橘類の入荷が非常に少ない中において順調な入荷となり、結果として前年同期を16%上回った。</p> <p>価格は、競合品目の柑橘類が少なく、入荷増ながら単価高で推移し、前年同期を31%上回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>青森を中心とする入荷。サンふじは、気温の上昇が早く品質劣化の懸念から大幅な前進出荷となった。結果として入荷量は、前年同期を35%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら競合品目も少なく、また、前年同期が単価安であったことから、前年同期を5%上回った。</p>
王林	<p>青森からの入荷。産地在庫が少なく、結果として入荷量は、前年同期を33%下回った。</p> <p>価格は、安値であった前年と比較して高値で推移し、前年同期を90%上回った。</p>
いちご	<p>熊本、福岡、長崎、佐賀、大分、愛媛を中心とする入荷。各産地ともに概ね天候に恵まれ、順調な入荷となった。結果として入荷量は、前年並みとなった。</p> <p>価格は、入荷量の増加に伴い中下旬にかけて安値基調となったが、上旬の高値によって結果として、前年同期を4%上回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡、宮崎、高知を中心とする入荷。気温の上昇とともに宮崎、高知の入荷量が増加し、全般的に順調な入荷となった。結果として入荷量は前年同期を12%上回った。</p> <p>価格は、入荷増によって前年同期を18%下回った。</p>